年間授業計画　様式例

都立拝島 高等学校 令和８年度（１学年用） 教科　国語　科目 言語文化

教　科：国語　科　目：言語文化　単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（１組：友永）（２組：友永）（３組：友永）（４組：友永）（５組：友永）（６組：友永）（７組：友永）

使用教科書：（『新編　言語文化』（数研出版））

教科　国語　の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目　言語文化　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	A 「説話」 【知識及び技能】 古典を読むために必要なきまり、特有の表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の内容や解釈を踏まえ、自身のものの見方や感じ方を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 本文を通釈したうえで、学習課題に積極的に取り組む。	「古文入門」 「児のそら寝」（『宇治拾遺物語』） ・歴史的仮名遣いや動詞の活用について理解する。 ・登場人物の心情の推移を把握する。 ・児の言動について自身に置き換えて考え、端末を利用しながら他者と共有する。	○	○	○	・古典の世界を楽しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を養っている。 ・本文を通釈したうえで、登場人物の心情理解に積極的に取り組み、他者と共有できている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	B 「随筆」 【知識及び技能】 古典を読むために必要なきまり、特有の表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習内容について、自身に引き付けて捉え、主体的に話し合いに参加する。	「高名の木登り」（『徒然草』） ・古文の特徴的な表現を意識して現代語に改めたり、文中にある動詞を基本形に直したりすることに慣れる。 ・作品から読み取れる教訓を正確に理解する。 ・作品の教訓を踏まえ、自身の実体験について、他者と話し合う。	○	○	○	・古典の世界を楽しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 ・進んで本文と自身を引き付けて捉え、学習の見通しを持って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	6
	C 「物語」 【知識及び技能】 古典を読むために必要なきまり、特有の表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の内容や解釈を踏まえ、自身のものの見方や感じ方を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 和歌や登場人物の言動に表れた心情を読み味わう。	「芥川」（『伊勢物語』） ・物語の展開を正確に把握し、内容の面白さを読み取る。 ・和歌が作品のクライマックスで見事な役割を果たしていることから、「歌物語」の特徴を学ぶ。 ・在原業平の人物像の解釈を通して、平安文学に対する理解を深める。	○	○	○	・古文を読解するために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・和歌や登場人物の言動に込められた心情を粘り強く解釈しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
2学期	A 「物語」 【知識及び技能】 古典を読むために必要なきまり、特有の表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 登場人物の人物像について考察し、主体的に話し合いに参加する。	「木曽の最期」（『平家物語』） ・長めの古文に慣れる。 ・尊敬表現から内容理解を深化させる。 ・「語りの文学」の特徴とも言える音便や対句、人物像の対比を理解する。 ・当時の武士の生き方について、時代背景とともに考察する。	○	○	○	・辞書や文法テキストを調べながら、本文を正確に現代語訳できている。 ・尊敬表現に着目して、人物関係の理解に繋げている。 ・義仲と兼平の人物像について、根拠立てて説明できる。 ・義仲と兼平の人物像や関係性について、粘り強く分析している。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
	B 「小説」 【知識及び技能】 本文の構成、登場人物の心理などについて、正確に解釈する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や表現の仕方、特色について評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 登場人物のその後について積極的に考え、発表を通して他者と共有する。	「羅生門」 ・本文の構成や表現の仕方を読み味わう。 ・作品に描かれた登場人物の心の機微を自身に引き付け、考察する。 ・内容の解釈を踏まえたうえで、さらなる作品理解に取り組む。	○	○	○	・作品の構成や登場人物の描き方、文章表現などを吟味し、自分なりの解釈を持っている。 ・当時の時代背景なども踏まえ、作品の世界観を読み味わっている。 ・学んだことを生かし、登場人物のその後について積極的に考え、他者と意見交換をしている。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
3学期	A 「漢文」 【知識及び技能】 我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、作品の成立背景などを踏まえ、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 故事成語の用例を調べて発表する課題において、積極的に取り組んでいる。	「漁夫の利」 「虎の威を借る狐」 ・漢文訓読の基礎知識を定着させる。 ・故事成語について、本文を正確に読解し、成り立ちを理解する。 ・学んだ故事成語が、実際にどのような場面で用いられるかについて考える。	○	○	○	・漢文訓読のきまりに従って、正しく読解できている。 ・漢文に由来する故事成語が現代の日本語として用いられることについて、具体例をもとに理解できている。 ・故事成語の用例調査に粘り強く取り組み、故事成語を効果的に使えるようになっている。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
	B「漢詩」 【知識及び技能】 我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、作品の成立背景などを踏まえ、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 日本で書かれた漢詩を調べて発表する活動において、真摯に課題に取り組んでいる。	「春暁」 ・代表的な漢詩に触れ、中国文学の世界観を感受する。 ・詩形や漢詩のきまりを定着させる。 ・唐代の中国文学について理解する。 ・中国の漢詩が日本にもたらした文化的影響について、端末を用いて調査する。	○	○	○	・漢文のきまりや日本語と漢文で異なる意味を持つ語などについて、正確に理解できている。 ・唐代の時代背景を踏まえ、漢詩の内容を解釈し、読み味わうことができる。 ・石川丈山や夏目漱石の漢詩などに触れたうえで、我が国において、中国文学がどのように受容されたのか、主体的に学び、他者に伝えようとしている。	○	○	○	4
										合計
										70